

教育研修会

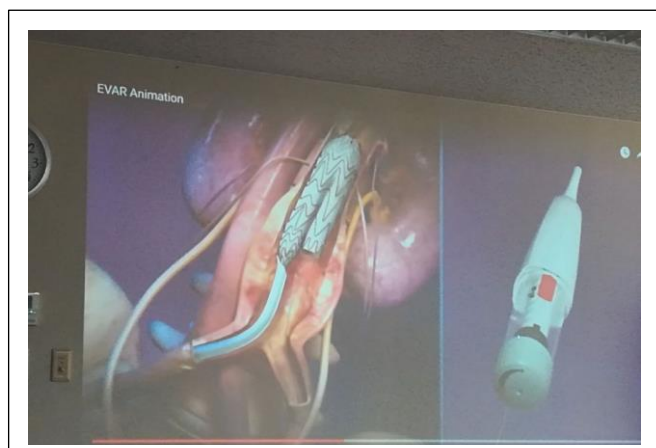
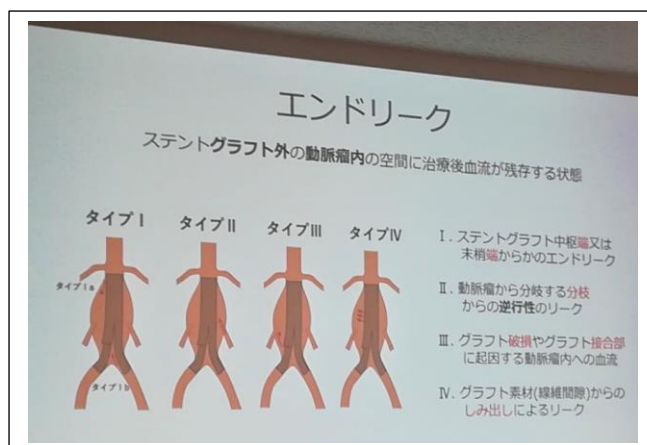
日時：R5年8月29日(火) 17時より開始

場所：新王子病院 4F 会議室A

講師：JCHO九州病院腎臓内科部長 田村恭久先生

症例：大動脈瘤 81才 男性 透析歴 5年4ヶ月

講義中の様子です。



今回の症例は11年前に腹部大動脈瘤手術施行。2年前に下行大動脈瘤拡大傾向認め開腹にてステントグラフト内挿術施行。今回エンドリークがあり、開胸にて追加のステント内挿術施行。エンドリークとはステントグラフト外の動脈瘤内の空間に治療後血流が残存する状態。4つのタイプがあります。大動脈瘤は症状がなく検査をしなければ発見されず、痛みや血痰など症状が現れたときには破裂寸前の状態とのこと。破裂すると死亡率は50%。大動脈瘤の日常管理として、血圧管理(130/80mmHg未満)β遮断薬の内服や生活指導(禁煙・暴飲暴食・過労・睡眠不足・ストレスの回避)運動制限や排便時のいきみ・長時間の咳込みの回避などがあります。高齢化や高血圧性・糖尿病性腎不全の増加に伴い動脈硬化に起因する同様のケースが増加することも予測されます。今回の講義で少しでも症状の早期発見や患者の日常管理の指導に役立てたらと思いました。